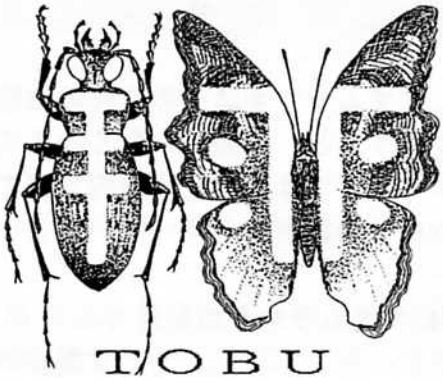


NO. 62

1987年 4月

百万石蝶談会

目　　次

：短　　報　　8 ……1
田中秀夫：金沢市におけるオオムラサキの分布 ……2
金子二久：想い出ばなし:其の四（メッコキシタバ） ……4
吉村久貴：初めての遠出採集 ……5
吉村久貴：富山県栃波市におけるクロコムラサキの記録 ……6
松井正人：白峰村赤谷川のギフチョウ……6
井村正行：石川県におけるソボリンゴカミキリについて ……7
松井正人：スッポンタケに引かれたセンチコガネと‥ ……7
編集部：1987年私の抱負 ……8
多富　敏：Self introduction ……8
編集部：会員の動き・しゃばの動き ……9
編集部：例会の記録 ……10

短　　報　　8

ギフチョウ

1987年3月21日	辰口町和気	1♂	横山　隆
1987年3月22日	辰口町長滝	2exs	松田俊郎
1987年3月29日	金沢市窪	8♂♂	吉村久貴・嵯峨井淳郎
1987年3月29日	金沢市三小牛	2♂♂	松井正人
1987年3月29日	金沢市平栗	3exs	竹谷宏二
1987年3月29日	金沢市二俣	6♂♂	田中秀夫・松井正人
1987年3月29日	小松市遊泉寺	8♂♂	吉村久貴
1987年3月30日	加賀市牛ノ谷峠	3exs	吉村久貴

金沢市におけるオオムラサキの分布

田 中 秀 夫

雑木林にはいろいろな昆虫が住んでいるが、オオムラサキはその自然の象徴といってよい。雑木林が伐採されたり変化したりすると、最初にいなくなるのがオオムラサキで、同じエノキを食するゴマダラチョウは、神社の境内などでも生活していることから、生活環境の悪化にかなりの抵抗力を持っているといわれる。

文献上からは、倉ケ岳周辺、天池、医王山等にオオムラサキの記録があるが、分布の現状についての調査は、なお不十分なままとなっている。そこで調査域を金沢市だけにとどめ、越冬幼虫を調査したので、ここに報告したい。

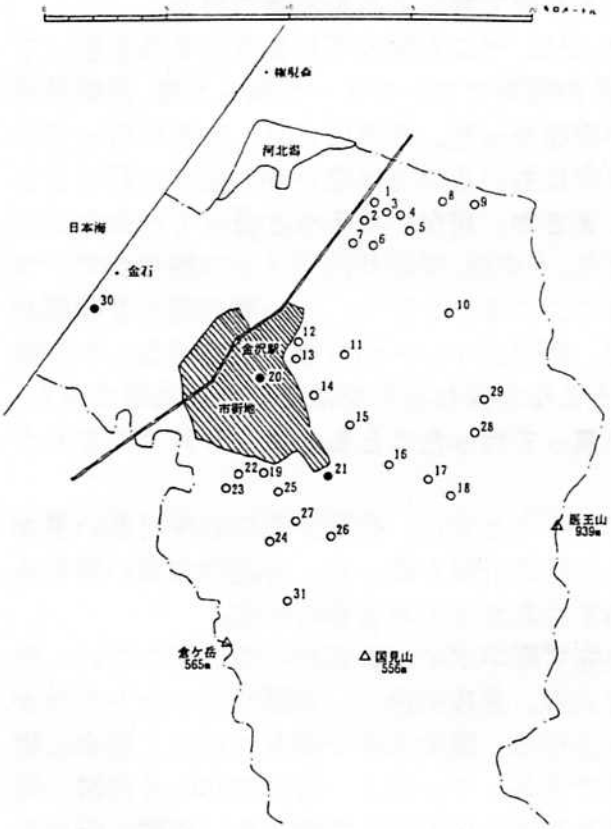
この調査は、1986年10月～12月にエノキの根際の落葉裏にもぐっている越冬幼虫を確認する方法で行った。落葉裏の幼虫を調べる場合、根際から1m 以内の落葉をすべてビニール袋にいれる等して、完全に調べ尽くせば正確な調査となるであろうが、たいへんなので50cm以内を重点的に調べることにした。なお、エノキの分布については、あらかじめおおよその調査はしてあった。

調 査 結 果　1986年 10月～12月

NO	調査地	調査エノキ数	越冬幼虫数	NO	調査地	調査エノキ数	越冬幼虫数
1	金沢市花園八幡	17	27	17	金沢市湯谷原	3	8
2	〃 梅田	5	12	18	〃 放牧場	4	17
3	〃 四坊	3	6	19	〃 野田山	4	6
4	〃 四坊高坂	30	108	20	金沢大学城内	10	0
5	〃 四王寺	11	32	21	金沢市土清水	6	0
6	〃 深谷	4	5	22	〃 山科	3	7
7	〃 岩出	3	3	23	〃 窪	4	3
8	〃 榎尾	3	6	24	〃 平栗	6	7
9	〃 俵原	6	6	25	〃 三小牛	5	4
10	〃 古屋谷	2	14	26	〃 天池	2	3
11	〃 山王	12	3	27	〃 別所	3	10
12	〃 鳴和(春日山)	5	4	28	〃 田島	8	5
13	〃 卯辰山	13	21	29	〃 二俣	6	3
14	〃 鈴見山	4	6	30	〃 佐奇森	12	0
15	〃 角間	4	11	31	〃 小原	7	5
16	〃 中山	5	4				

金沢市内31地点のうち、28地点からオオムラサキの越冬幼虫を確認し、その合計は346頭に達した。しかし調べたのは根際から50cm以内で、しかも3~6頭発見すると次の調査地に移ったことも少なくなく、またエノキの根下が辺り一

面落葉だらけなことを考えると、見落としの数はかなり多いと思われ、実際には２～３倍はいると考えられる。その上時間の制約もあって、エノキがあるからといって総て調査するわけにはいかなかった。



佐奇森(30)から金石一帯に続く防風(砂)林には多くのエノキが見られ、内灘町権現森ではエノキ林をも形成しているが、ゴマダラチョウが多く、本幼虫は見出すことはできなかった。しかし森本丘陵地(3,4,5,6,8,9)、卯辰山丘陵地(12,13,14)、野田山丘陵地(19,25,27)等の低山帯ではかなり広く分布しているようで、花園八幡(1)~梅田(2)~岩出(7)~鳴和(12)~卯辰山(13)、野田山(19)~山科(22)~窪(23)といった平野と丘陵地の境にあたる場所でも、雑木林に生息が確認された。特に花園八幡の雑木林では、一級国道まで200mの距離にもかかわらず、多数の幼虫が見られたのには驚いた。

四坊高坂(4)ではかなりな数のエノキがまとまって見られ、当然越冬幼虫の数も多く、最初に調べたエノキからは本調査最高の47頭が発見された。あとは幼虫を見るたびにここもかという感じで、２～３頭発見するたびに次のエノキへと移っていった。金沢市内では分布密度が一番高いように感じられた。しかしオオムラサキの楽園(？)、四坊高坂にも伐採の波が及ぼうとしている。森本地区(1~10)ではスギの植林が急ピッチで進められ、四坊高坂から100mも離れていない所で、昨年クヌギ、コナラ林の伐採が行われている。造林関係者の松井正人氏は、地主に植林の意志がないのなら大丈夫だろうと言っておられるが、もし意志があるのなら明日にでも伐られることになる。四坊高坂のオオムラサキは、まさに絶滅の危機にひんしているいっても過言ではないだろう。

石川県のオオムラサキは、加賀地方の丘陵地には広く分布していることが報告されているが、金沢市でも平野部を除けば、「エノキがある雑木林」にはたいてい分布していた。(条件によっては幼虫の見られないこともある)　未調査地が多く残されているが、雑木林が存在するならば分布の可能性はかなり高いと言えるだろう。

想い出ばなし：其ノ四　（メッコキシタバ）

金 子 二 久

それは前翅が碧く、怪しく光るカトカラで激しく人を引きつける。

野中氏の御指導の下、医王山でキ、シロ、ベニを採ってしまうとそれを狙って遠出した（1982年７月16日）。山梨県の明野でフシキを一つ採った後、長野県戸台へ移動し幕を張る。エゾベニしか来なかった。８月に入り、大阪に行っていた野中氏が帰ってきて、吉野谷村中宮にもいるのではないか、採りに行こうと言う。その晩は寒かった事もあり、まさか、居ないだろうと言って行かなかった。ふられた彼は嵯峨井氏と出かけた。その夜、嵯峨井氏がメッコ谷出合で一つ手で押さえ、次の晩丸石谷出合で幕に二つ来たと言う。その夏の残りを全部かけた。毎夜出かけた。メッコ谷周辺、野中ポイントの付近。或る晩なんかは蛇谷大橋のまわりに崖が多いので、あそこなら採れるのではないかと真暗な道を、手押車に発電機を、背中に蛍光灯を負って行ったこともある。９月半ばでとうとう諦めた。

シーズンオフに嵯峨井宅で見せてもらうと共に、食草が石灰岩帯に多い事から白山周辺の地質図を理学部に調べに行き計画を練った。可能性の高い所を五ケ所選び、シーズンになったら一つずつあたってみる事にした。

次の年８月になると、計画に従い先ず野中ポイントに行った。採れない。次の晩（1983年８月５日）メッコ谷に入る。真夜中近く、見慣れないカトカラが幕の前を上下している。心臓が踊り上がる。震える手で網をつかみ、懸命に振る。毒瓶の中に追い込み、懐中電燈で見る。ヤッタ！　時に23:45。その後一時間程して又一つ来た（２×♂♂）。車をとばしにとばして帰った。玄関に明かりをつけると犬（名：モコ）が迷惑そうな顔をする。それにも声をかけ　手、顔を洗い寝室に入ると布団の中でワイフが”採れたでしょう。モコに優しかったもの”と言う。そのメッコ谷へは二、三回行ったが、もう採れなかった。秋になって野中氏と”やっぱり珍品なんだな。一つの谷に一番（つがい）位しか居ないんじゃないか”と話していた。

去年（1986年７月18日）岡山へカバフキシタバを採りに行った。採れたら小豆島へ渡り、寒霞渓の黒いと言う奴を狙ってみようと考えていた。カバフは二つ採れたのでフェリーで渡った。夕方、見晴らしの良い尾根に幕を張る。満月。先程までどんより空を覆っていた雲は消え、月は真ん前、海が銀色に光り、下界の燈火が美しかった。それでも発電機を動かす。ものの二、三分すると止まってしまった。スターターを何回引いても作動しない。あと50回引いてみて駄目なら下の自動車屋にでも頼みこんでみようと決め、又引っ張り出す。たしか35回目位にボボボ…と動きだす。頼む！頼む！と祈っていると順調に廻りだした。しかし満月には勝てず、幕は白いまま。その代わり、山の上に怪しい青い光りが見えると言うのか夜なか中、車が集まって来た。３時頃、月の側に雲が出た。

拡がってくれと念じていると30分位月を隠してくれた。とたんに蛾が来る。それは四つ来て、三つ毒瓶に入れた。薄明るくなるまでやり、港へ降りて一番のフェリーで岡山へ帰り、午前中カバフを探す(1×♂)。昼過ぎより高速道で金沢へむかった。

音もなく雪の降る夜半、コーヒーを片手にストーブの前で標本箱を見ていると、発電機の音、幕の上の蛾、毒瓶の香り等々…、心は一瞬にしてその地へ飛んで行く。

本当に虫採りって良いものですね。

初めての遠出採集

吉村久貴

1986年の６月下旬から７月中旬は雨にたたられる日が多く、日曜日もロクに採集に出かけることができなかった。金沢ではまだまだ梅雨明けの気配も無かったが、”安房峠を越えれば、そこは別世界だ。”と勝手に気めた２人組がいた。７月21日に長野県目指して、中藤先生のTown Ace(新車)で出発した。

富山からの国道41号線は神通川沿いのせいか濃霧が発生し、その中をひた走った。Town AceはDieselエンジンでも時速50kmを越えると、Turboが効いて結構良く走る。平湯温泉に付く頃には星がきれいに見えた。松本で食料を買い込んで、朝７時に長野・群馬県境に到着。朝露に濡れた登山道を約１時間歩くと、標高1850m付近に達した。

空には雲が点々と浮かんでいるがほぼ快晴。空気にも湿り気が感じられない。あとは黄色い蝶が飛び出すのを待つだけである。以前に比べると数が減ったみたいで何も飛び出さない。浅い草叢を叩いて回ったが、ほとんど何も採れなかった。同行の中藤先生も、フタスジチョウとコヒョウモンモドキをネットしただけであった。時期が少し早いと勝手に判断し、あまり獲物の無いのも面白くないので、転戦することに決めた。

午後１時過ぎに松本市郊外に到着。車中から道路に吸水に来ているオオムラサキを発見。車をすぐに止めて、２♂をネットイン。他にはスジボソヤマキチョウ、フタスジチョウが多数目撃された。

予想外に採集品は少なかったが、オオムラサキほか中藤先生には初めての種ばかりで、大変喜んでいた。やっぱり長野県まで遠出すると、石川県ではあまり採れないものも簡単に採集できて面白い！！

1986年７月21日

群馬県嬬恋村　フタスジチョウ、コヒョウモンモドキ、クロヒカゲ
長野県松本市　オオムラサキ、コムラサキ、フタスジチョウ
スジボソヤマキチョウ

富山県砺波市におけるクロコムラサキの記録

吉 村 久 貴

クロコムラサキは、能登地方では普通型コムラサキよりかなり高頻度で見られるが、加賀地方ではいくつかの採集例が報告されているにすぎない。筆者は、富山県砺波市の庄川河原で、このクロコムラサキをいくつか目撃・採集しているので報告する。

砺波市安川の庄川河原には、ヤナギの群落が点々と見られるが、このヤナギの樹液にヒラタクワガタが来ているのではないかと思い、２～３年前から何度か足を運んでいる。未だヒラタクワガタには巡り合えず、ミヤマクワガタ、ノコギリクワガタ、コクワガタルを見つけただけである。

このヒラタクワガタ探しの際に、ヤナギの回りを翔んだり樹液で吸蜜したりするコムラサキを何度か目撃しているが、予想外にクロコムラサキが多いのに気付いた。目撃したコムラサキの1/3はクロコムラサキのようである。

本年(1986年)６月15日には、強制採卵用に１♀ネットして持ち帰ったが、残念ながらこの♀は卵を産まずに約２週間後に死亡した。庄川河原で越冬幼虫を採集し飼育してみれば、どの程度の頻度でクロコムラサキがでるのかはっきりするはずである。

なお、以前に東砺波郡井波町在住の笹川氏に聞いた話ではあるが、井波町で採幼・飼育してみると、４割ぐらいがクロコムラサキのようである。

クロコムラサキ　富山県井波町安川庄川河原

1984年７月31日	2♂目撃	吉村久貴
1986年６月15日	1♂目撃1♀採集	吉村久貴

白峰村赤谷川のギフチョウ

松 井 正 人

1986年春、ギフチョウの発生地が白峰村で初めて確認され、発生地の追認をすべく近辺を調査したところ、食草となるヒメカンアオイが白峰村赤谷川にも分布していた。

ヒメカンアオイはダム湖の終わる辺りより赤谷川左岸に見られ、これは小赤谷分岐まで続いていた。(右岸は未調査)　分岐からは小赤谷左岸に１km程見られ、その先と右岸は調査していない。分岐から赤谷川は、左岸の山腹から１ヵ所発見しただけで右岸からは全く発見していない。

石川県のギフチョウは、金沢市以南に於いてカンアオイさえあれば分布すると言っても過言でなく、尾根向こうの白峰村大道谷川でもヒメカンアオイから発生している。赤谷川のギフチョウも、長い冬が終れば人知れずヒラヒラと舞っているに違いない。

石川県におけるソボリンゴカミキリについて

井 村 正 行

石川県でのソボリンゴカミキリ(Oberea sobosana OHBAYASHI) の採集例は、これまで金沢市卯辰山の一例だけだったが、昨年(1986年)筆者もツツジ類生葉のスウィーピングで1♂採集したので報告する。

1986年7月15日　金沢市国見山　　1♂　　井村正行

本種は全国的に採集されているが個体数は少なく、また以前は標高の高い地に生息していると思われていたが、近年低地でも採集されるようになった種でもある。石川県での記録も卯辰山で140m程度、国見山で500m程度と低かった。本種は他のリンゴカミキリ属と大変紛らわしく、筆者も採集した時はホソキリンゴと間違い、帰宅後はヒメリンゴの黒化型と勘違いし、そのまま年を越してしまった。その後標本の整理中に、どうしてもソボリンゴの可能性が強いと思い、同好の師でもある入場登氏のソボリンゴと比較したところ本種であることが判明した。

石川県産の本種特徴を記すと、他県産に比べ黒化が強く、一見ホソキリンゴに似る。また触角も他県のものより長いのか、本♂のそれは体長をわずかに越す。その他は図鑑等の特徴どおりである。末尾になりましたが、本種の同定に当り、入場　登氏には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

スッポンタケに引かれたセンチコガネと…

松 井 正 人

スッポンタケはキノコの一種で、幼いキノコはヘビかトカゲの卵そっくりで、やがて外皮を破ってスッポンの頭みたいなのが伸びてくる。このスッポンの頭は帽子状の傘を被り、その表面には黒っぽくてベタベタしたグレバというものが付いている。このグレバは無数の胞子を含み、特有の悪臭を放つことにより、ハエやアブを誘い、虫の体にグレバを付着させ、その伝播を図ることが知られている。

うちのカミさんはキノコに関心があり、特にスッポンタケを含む腹菌類に興味があるらしい。一度採ってきた時など写真に撮ったりしていたが、そのうち味を確かめたいとかで、やたら採って来いとうるさくなった。なんでも仲々の珍味らしい。てな訳で秋に入ってから特にスッポンタケには気を付けていた。

このスッポンタケを1986年10月28日に金沢市市瀬で発見し、伸びすぎて倒れているものを拾い上げた時、グレバ付近に一匹のセンチコガネがいるのに気が付いた。グレバの香しさに誘われたものと思われるが、この奇妙でへんてこりんなキノコに引かれるのは、野山を漂う虫達とうちのカミさんぐらいのものだろう。

１９８７年私の抱負

中　西	中西管工は産声を上げたばかりなので、今年は採集に出れそうにない。なにしろ生活がかかっているので今年は仕事に励む。
澤　田	1986年は冬眠してしまったが、今年は何としても砂丘地のオサムシを調べたい。
野　村	今年はゼフを中心に、卵から成虫まで全ステージに挑戦する。それとミヤマカラスアゲハの大集団吸水ポイントを捜す。
田　中	「ゼフイルス２４」を眺めていたらむしょうに蝶が撮りたくなってしまった。今年はα7000+100㎜マクロで身近の蝶を撮りまくる。
嵯峨井	今年からフィールドへ出ますので、皆さん誘って下さい。とくに夜には強いので、夜間採集には是非お供させて下さい。
吉　村	動ける間に高いところの蝶が採りたい。県内種では、コヒオドシが採りたい。
松　田	カメラとアミを持って台湾へ行きたい。ダメならせめて沖縄へ行きたい。同行者募集中です。県内はもっぱらカメラでせめる。
山　本	今年はカトカラ、大型種の蛾をせめる。それと中国地方へゴマを捜しに行く。更にはタイかフィリピン行も考えている。
井　村	ソボリンゴもおさえて現在479種。今年はどんな手を使っても500種目指して頑張るぞ。
田　辺	４月に独立を考えているので、今年は忙しくなりそう。それでも暇を見つけて撮影に出かける。
勝　海	去年はボツったが、今年こそはキマルリの新産地を捜す。まずは湖西と言ったところかな。
松　井	県内でアサギマダラの発生地を捜す。とりあえず県内の記録をまとめますので、ご協力お願いします。

Self introduction

多富　敏

自宅　〒952-04　京都府宇治市伊勢田町砂113-45　TEL 0774-20-2302
A型　　昭和２８年生まれ　　会社員

主に蝶専門ですが、みんな(グループ)の影響でカミキリ、オサムシにも興味を持っています。蝶では今ルーミスシジミに力を入れており、昨年は和歌山で採集し、今年は奈良で調査するつもりです。ニックネームは「シンラン・ショウニン」です。

会員の動き・しゃばの動き

★野村氏、新年会以来小林旭の「熱き心に」に惚れ込み、今日も口ずさんでいた。あ～春にはギフが舞い～

★豪華本が２冊も出版され、早速買い込んだ会員がいる。台湾産蝶類生態大図鑑は松井、松田の両氏、ゼフィルス２４は田中氏邸へ行くと見せてもらえる。

★１月30日井村会長に第３子 智(サトル)君誕生。のんびりとかまえたお父さん、３男とあってか14日目にしてやっと名前が決まった。

★２月５日井沢氏、木曜社の運び屋として、インドネシアへ。10日程で帰国するらしいが、またすぐ東南アジア方面へ行くらしい。

★井村会長、ワープロを買ったと思ったら、さっそく活字の原稿を持ってきた。「すごい、すごい」を連発すれば、当分の間、原稿不足に悩む事はないだろう。

★２月11日松井氏、輪島方面へゼフの調査。雨が降るのにナラガシワ、ミズナラ、イボタ、オニグルミ等を調査。ところが全くのスカ。

★２月15日嵯峨井氏、今年のギフは早いとばかり、獅子吼辺りを調査。好天にもかかわらず小雪がちらつき寒い１日だった。

★２月14･15日松井氏、カンアオイの調査。暖冬のおかげで雪が全くなく、鳥越、鶴来方面でナタデラを確認。

★フィリピン産の蝶は品薄　？
政情不安からフィリピンへの渡航を拒否する採集人が続出。現在活躍中はたったの一人とか。

★２月22日松井氏、二俣方面へギフの調査。北側斜面にわずかに雪が残る程度だったが、何も飛ばなかった。

★改築完了の嵯峨井邸へやってきた家屋調査のお兄さん。作り附けの標本ダンスを見つけ、不思議な顔付。説明を聞かされ、「そんな趣味が…」とびっくり仰天。そこで奥さんすかさず「市役所にはもっと凄い人がいますよ、…」

★吉村氏、ワープロを駆使し採集データーを管理しようとしている。データーの打ち込みが終れば、種名、地名等による検索、抽出、並べ替え等が自由自在にできる。手持ちのデーターはほとんど入力済らしい。

★２月24日横山氏、東北地方も陽気が良いとかで、ベニモンカラスがフ化し始めたらしい。

★今年は暖冬で２月に入ると春を漂わせ、ギフでも飛びそうな日々が続いた。ところが25日より雪が降りだし、翌日はなんと大雪警報、ギフが遠退いたと蝶屋はがっかり。

★井沢氏、木曜社でバクチ三昧。２月18日の帰国から、３月14日の出国まで果てしなく続くらしい。

★３月８日より米沢の横山氏、中西宅に居候。東北には虫友もいないし、山形も嫌いになったとかで、突然金沢にやってきた。アパートが見つかるまで、中西氏のお世話になる。

★「月刊むし」「昆虫と自然」とあいついで「86年昆虫界の動向」の特集を組んだ。翔はどちらにも取り上げられ、会員の名前もチラホラ載っていた。

★富昆同の大野豊氏、魚津電報電話局へ栄転。クモツキの保護活動にますます力が入りそう。
★金子氏、極めて多忙にもかかわらずイボタ卵の調査。例年の1/5~1/10程度と今年はイボタも少ないらしい。
★昨年７月から始まった昆虫切手シリーズは、３月12日発行の第５集で最終回となった。これらの原画はひとりの郵政技官が書き上げたものらしいが、ルリボシカミキリ、オニクワガタ、ウスバキチョウ等に人気があり、マイマイカブリは全く人気が無かった。
★３月14日中西、横山の崖崩し組。四十万辺りで仕事中、寸時を惜しんでオサ掘り合戦。右を向いてはオサ掘り、左を向けば仕事と両立させているところがニクイ。
★吉村貴己氏、農薬学研究室に入院決定。金沢へ戻るのは２年先の予定。
★３月15日久々に晴れた日曜日。松井氏は三小牛、田中氏は二俣、中西夫人は野田から平栗、窪とそれぞれギフ調査。まだ発見出来ず。
★ギフ調査激化

３月16日田中氏、二俣		ボツ
３月17日松井氏、二俣		ボツ
３月18日田中氏、二俣		ボツ
中西、横山、松井の各氏、	野田~三小牛	ボツ
３月19、20日　雨		

★３月21日(快晴)ギフ大調査

田中、松井組、	金沢市二俣	ボツ
中西夫人、	金沢市野田~三小牛	ボツ
嵯峨井氏、	金沢市窪	ボツ
松田氏、	辰口町燈台笹	ボツ
勝海氏、	辰口町徳山	ボツ
中西、横山組、	辰口町和気	１♂

★３月20日野村氏、独立。今のところ工房を持つ予定はなく、ひとり社長はただ忙しいだけとか。
★田中先生、４月から俵小学校勤務となる。自然に囲まれ毎日昆虫観察ができると大ハリキリ。

例会の記録

２月６日(金)７時より城南管工２Ｆにて開催。今回は1986年のMr.Ms.蝶談会副賞授与式、1987年私の抱負、標本箱共同購入の話がありました。Mr.蝶談会の田中秀夫氏にはドイツ箱賞、準Mr.蝶談会の松井正人氏には虫ピン賞が送られた。私の抱負は別記。また今回の主な雑談としては、冬は暇だから文献を読み漁ろう(田中)、春は恐山ツアーだ(中西)、隠れ蝶談会ファンがいる(松井)、台湾産蝶類生態大図鑑に翔が引用されている(松田)、高羽氏の標本見学会を開こう(井村)、石川県の蛾の記録はどうなっているのだ(山本)、今年のオアシスの表紙は小幡氏が担当する(野村)、井沢氏が東南アジアで採れるのはエイズぐらい?(嵯峨井)、４月に独立します(田辺)等。10月の井村氏、１月の中西氏、４月の田辺氏と最近の蝶談会は社長流行りである。出席者は中西、井村、澤田、野村、田中、嵯峨井、吉村、松田、山本、田辺、勝海、松井の１２名。

と　ぶ	NO.62 1987年４月10日発行
編　集	松 井 正 人
発　行	百万石蝶談会
事務局	金沢市大場町東871の15
	松 井 方
	〒920-01 ☎0762-58-2727
	郵便振替(金沢)５-５６２